



高齢者における膀胱全摘術の適性評価：DPC データからの洞察

2013年01月01日から2024年03月31日までに日本医科大学付属病院泌尿器科にて膀胱がんに対して膀胱全摘術を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「高齢者における膀胱全摘術の適性評価：DPC データからの洞察に関する研究」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2013年01月01日から2024年03月31日までに日本医科大学付属病院泌尿器科にて、膀胱全摘治療を受けられた患者さんのDPC データを調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：高齢者における膀胱全摘術の適性評価：DPC データからの洞察

研究期間：研究実施許可日～2028年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 泌尿器科 大学院教授 近藤 幸尋

(2) 研究の意義、目的について

膀胱全摘除術は、高い侵襲性を伴い合併症に留意する必要があります。日本は急速に高齢化社会を迎えており、高齢者への膀胱全摘除術の実施は重要な課題となると予想されます。どの患者さんに対して膀胱全摘除術を実施するかについては、個別の患者さんごとに慎重に検討する必要があります。日本医科大学付属病院では、患者さんのDPC (Diagnosis Procedure Combination) データ(*)を解析することで、膀胱全摘除術の安全性や医療費への影響を明らかにし、高齢者に対する手術の適切性を評価することを目的としています。

(*) DPC データは医療の品質を標準化することを目的として、全国の急性期病院で導入されており、質の高い効率的な医療の提供を目指した制度です。

(3) 研究の方法について (研究に用いる試料・情報の種類)

2013年01月01日から2024年03月31日までに日本医科大学付属病院泌尿器科にて、膀胱がんに対して膀胱全摘術を受けた全ての患者さんのDPC データを活用し、高齢者(75歳以上)と非高齢者(75歳未満)に分けて膀胱全摘術の安全性や医療費についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：DPC データ【性別、年齢、BMI、併存症(高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管疾患、呼吸器疾患)、喫煙状況、ASA-PS(米国麻酔科学会による術前身体状態)、術前治療の有無、ステロイド使用の有無、抗血栓薬の使用の有無、血液学的検査：(白血球数、赤血球数、血小板数、白血球分画)、血液生化学検査：(AST、ALT、BUN、Cre、Na、K、Cl、 γ -GTP、ALP、LDH、TP、Alb、CRP)、手術関連データ：(術式、手術時間、術中出血量、尿量、リンパ節郭清、輸血使用量)、転帰：(術後在院日数、集中治療室日数、輸血使用量、抗生剤使用量、術後30日の退院有無、生存の有無)、医療費：(膀胱全摘の入院期間における医療費)】

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。



(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 泌尿器科 講師 遠藤 勇気

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24684

メールアドレス：y-endo1@nms.ac.jp